

# SANS FRONTIÈRES

## vol.49

水戸葵陵高等学校ホームページ <http://www.kiryu.ac.jp/>

## 2021年が始まりました

新しい年になりました。学校としては3学期の開始です。

1月16、17日には初めての共通テストが実施され、3年生が受験しました。3年生はその結果をもとに面談等を行い、国公立大や私大の個別試験に向けて学習に励んでいます。

1、2年生は、それぞれの学年のまとめの時期であることを意識しましょう。特に2年生の3学期は「受験ゼロ学期」と言われますが、1年生にとっても次年度準備の学期であるのは同じです。これまでの生活や学習を点検し、改善すべきところを改善し、次年度につなげるための大切な時期です。「なんとなく」過ごすのはもったいないことです。

## 共通テスト 各教科からのアドバイス

共通テストの問題は、新聞やWebなどで公開されています。見てみましたか？  
解ける問題もあるはず。「まだ3年生ではないから、関係ない」とはいえません。  
今回の医歯薬通信は、各教科の先生からの共通テストの分析やアドバイスを掲載しました。  
まず、見てみましょう。  
そして、自分にはどのような力が必要なのか、考えてみましょう。  
それが自分の力を伸ばすことにつながります。



## 【英語 リーディング】

昨年度までのセンター試験とは異なり、文法や語彙のような知識が直接問われる問題がなくなり、応用である長文だけが出題されるようになりました。語彙数は約5,500語で、語数だけでいえば教科書9レッスン分を80分で一気に読む量です。対策は、知識と応用を区別して、長期的かつ継続的なトレーニングを積むことです。現1年生は応用の<sup>いしずえ</sup>礎、知識が必要です。文法・構文知識を2年の冬までに習得し、その後実践練習が積めるようにしましょう。現2年生はただ解くだけでなく各形式への慣れや選択肢の読み方など、実践的な弱点把握と、知識に漏れがないか確認する癖を付けましょう。

## 【英語 リスニング】

リーディング同様、共通テストは英検3級～準2級レベルの出題が半数ほどあります。つまり、簡単な問題を確実に得点することが大切です。対策に使う教材は、現1年生は英検準2級レベル、現2年生は2級レベルが目安です。ただし、現状や目指す学部に応じたレベルで対策しましょう。聴解試験の際は、①先読み②選択肢絞り込み③メモ取りが基本戦略です。特に大問6B形式は4人の登場人物が速いペースで立ち替わり話すもので、誰が話しているのか混乱する受験生が続出し、メモ取りの重要性が際立ちました。自習の際、レベルにあった問題で戦略を活用し、対策しましょう。

## 【数学 I A&II B】

各設問別に何の単元から出題されたか等の詳細は河合塾などのHPで閲覧すること。  
加えて、大学入試センターHP内にある、令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針(令和2年1月29日一部変更)も読むと、今回の目新しい問題がなぜ出題されたのかわかると思います。その上で…

試行テストや対策問題集に比べて、太郎さん花子さんの会話読み取り文量が多少減って、彼らの数学的な見通しを検証することを要求されました。また長文を読み解きながらその“過程を振り返り、得られた結果を意味付けたり、活用したりすること”に沿った問題、文字による置き換えが発生した結果として、正しい文字式や言葉を沢山の選択肢の中から選ぶ問題もありました。加えて数学II Bのベクトルでは正十二面体の中に立方体があることが分かっている受験生にとっては簡単であったかと思えます。教科書等では扱われていない数学の定理等を既知の知識等を活用しながら導くことのできることが求められました。一方で多くの頁が割かれるデータの分析はその見開き内で解決できるよう配慮がなされていました。以上から速読の訓練や解答手順など出題者の意図、考え方に素直に乗って立式、解答するチカラを養いたいですね。まず FocusGold の StepUp 問題に挑戦しよう。

## 【化学】

まず形式について。従来のセンター試験と類似した問題も多く出題されました。ただし、共通テストでは、適切な有効数字 2 桁の数値を1つずつマークする形式(数学と同様のマーク方式)や方眼紙を与えて考えさせる設問など、思考力を問う設問も見られました。

対策については、普段から丸暗記中心のような表面的な学習ではなく、各分野の根本的な部分を理解しながら学習を進めるように心がけましょう。ただし、思考力だけでなく、速く正確に計算する力も必要になりますし、教科書に記述されているような基本的な知識を活用する力も必要になります。

日々の授業や復習を大切にして計画的に学習してもらいたいと思います。

## 【生物】

生物は各大問の【B】問題に関して、既に 10 年以上前より教科書にはない事象、グラフや表により思考力を試す問題を実施してきた。このため今回の共通テストでは、ややこの様な問題の割合が増えた傾向はあったが、全体的に大きな変更はなかった。センター試験の過去問や対策模試の過去問で十分にその対策ができたためか、文章量・選択肢数・図表量が例年に比べ減少したせい、中間発表された平均点も理科②の中で最も高かった。

今後の対策としては、教科書レベルの基礎をしっかりと学習した後に、これまでのセンター試験過去問集や対策問題集の各大問【B】に該当する問題を演習することで、高得点を狙えると考え。ただし、来年度に関しては高平均点の反動で、難化が予想されるので気を付けて欲しい。

## 【物理】

昨年行われた最後のセンター試験の「物理」の 20 問から今回は 28 問と大幅に問題数が増加しました。さらに、近年の傾向で、教科書や問題集の問題より具体的なものを対象(第3問でダイヤモンドや水銀原子が取り上げられている)にしており、状況説明のため問題文が長くなっています。このため、実際に解くための時間がかなり短くなっています。しかも、これまでのセンター試験に比べ直ちに解法の方針が立つものが少なくなりました。これまで解いたことがない傾向の問題や知らない用語が出てくる問題への対応力が弱い生徒は点を取ることができなかったと思われます。日頃から自分の興味関心がない分野の用語・話題にも触れ、視野を少しでも広げておきましょう。(ネットでは自分の見たいものしか見ないようにできるので視野は広がらないからダメ。紙の本や新聞にくまなく目を通してみることをおすすめします。)

## 【国語】

複数の文章の読解問題がありましたが、全体の形式はセンター試験に準じたものでした。ただ、現代文の漢字が4択になったり、単純な文法問題がなく、直接知識を問うのではなく、「文章を読んで考える」ことを意図していると思われます。しかし、それは知識がいらぬということではありません。「知識はあって当然。その上で考える」ことを要求されており、ハードルが上がったと考えるべきでしょう。

考えるための基盤になるしっかりした知識を身につけ、その知識をどう運用するか、それが問われています。現代文でも古典でも、「解くまでの思考過程」を意識して演習する必要があります。「設問の意図を理解する」「確かな知識を使う」「論理的に考える」ことを意識して問題に臨みましょう。

## 【現代社会】

共通テストは大問5、小問30で出題され、センター試験と比較すると問題数は減りました。センター試験よりも長い本文や問題文での出題、グラフや表の読み取り問題が目立ちました。またセンター試験と比べ問われる選択肢の数が増え、思考力を問う問題も出題され、問題1問あたりにかける時間が多くなりました。教科書や資料集に掲載されている図表が読み、得た知識を活用し、解答へと導くための問題に慣れておく必要があります。一方でセンター試験と同様の知識を問う問題も出題されており、余裕をもって問題に取り組むためにも各分野の基礎的な学習を進めていきましょう。教科書の内容の理解や資料集での図表の確認を行うとよいでしょう。

## 【地理】

センター試験と比較すると、解答数は3~4問減少したが、すべての問題が図表や資料を読み解くもので(しかも複数の図表や資料に関連させるものが多い)、1問解答するために必要な時間はセンター試験よりもはるかに必要になった。また、選択肢が6つある問題が昨年より2問増え、昨年まで見られなかった選択肢が8つある問題が2問出題された。普段から地図やグラフ、表などに慣れ、そこから何が読み取れるか、何が推測できるかを考え、さらにそれを検証するトレーニングが必要である。

各教科の先生による、問題分析はいかがでしたか？  
「どう学習するか」「何を目標とするか」  
それを考えて学習すると、効果的な学習ができます。  
日々の学習の意識を変えてみましょう。

